

MUSE 名画シアター

～時代を超越する異端のヒーローたち～

勝新太郎・鶴田浩二・高倉健主演 豪華4本立て!



不知火検校

盲人の按摩が悪事を重ねて地位を上げていく。勝新太郎のヒット作!

11月19日(月) 11:00 開始 1960年・大映 (91分)

出演:勝新太郎、中村玉緒、近藤美恵子、丹羽又三郎 ほか



次郎長三国志

遠州清水港の次郎長とその子分たちの活躍を描いた痛快時代劇

11月19日(月) 13:00 開始 1963年・東映 (102分)

出演:鶴田浩二、松方弘樹、佐久間良子、山城新伍 ほか



網走番外地

高倉健の人気を不動にした東映の人気シリーズの記念すべき第1作

11月20日(火) 11:00 開始 1965年・東映 (91分)

出演:高倉健、丹波哲郎、田中邦衛、嵐寛寿郎 ほか



人生劇場 飛車角と吉良常

任侠映画初受賞! 第42回「キネマ旬報」ベストテン第9位

11月20日(火) 13:00 開始 1968年・東映 (109分)

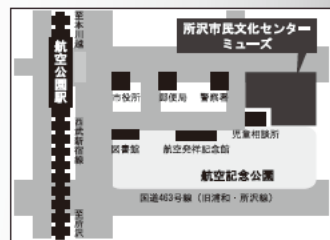
出演:鶴田浩二、高倉健、辰巳柳太郎、藤純子 ほか

所沢市民文化センター ミュース マーキーホール

時間/10:30開場 ①11:00開始 ②13:00開始

料金/全席自由(一日券) 800円 8月4日(土)一般発売開始

ご予約
問合せ ミュースチケットカウンター **04-2998-7777** 電話予約(10時~18時)
窓口販売(10時~19時)
チケットぴあ 0570-02-9999 / ローソンチケット 0570-000-407



西武新宿線・航空公園駅東口より徒歩10分/バス3分

主催:公益財団法人所沢市文化振興事業団 / 文化庁 / 国立映画アーカイブ ■特別協賛:木下グループ ■協力:株式会社オーエムシー

問合せ:所沢市民文化センター ミュース 〒359-0042 埼玉県所沢市並木1-9-1 Tel.04-2998-6500 所沢ミュース 検索

*未就学児のご入場はご遠慮ください。 *上映作品は、年代を経ていることにより画像・音声等に劣化が生じている可能性があります。予めご了承ください。





上映作品紹介



11月19日(月) 11:00～『不知火検校』

森一生監督 ◆ 大映(京都) ◆ 白黒 シネマスコープ

盲目の按摩・杉の市が、悪行の限りを尽くして地位と富を手にした末に、縛に就くまでを過激に描いた時代劇。主演の勝新太郎は、1954年に端正な顔立ちの二枚目役者としてデビューしたが、大きなヒット作に恵まれずに不遇をかこっていた。しかし本作において、勝は容赦のない悪漢を見事に演じきってみずからのスターイメージの転換に成功し、日本映画に新しい「異端のヒーロー」像を生み出した。本作における勝のヒーロー像は、2年後からはじまる「座頭市」シリーズに引き継がれて勝の生涯の当たり役となったほか、田宮二郎とのコンビで人気を博した「悪名」シリーズや、「兵隊やくざ」シリーズへと発展してゆく。本作で共演した中村玉緒は1962年に勝と結婚した。



11月19日(月) 13:00～『次郎長三国志』

マキノ雅弘監督 ◆ 東映(京都) ◆ カラー シネマスコープ

講談や浪曲など大衆芸能の世界で広く知られている幕末の博徒、遠州清水港の次郎長とその子分たちの活躍を描いた痛快時代劇。監督のマキノ雅弘は1952年から54年にかけて『次郎長三国志』(東宝)9部作を作っており、次郎長ものの決定版との評価が高い。東映のこの作品はそのリメイク版にあたり、4部作として製作されている。1920年代半ばに監督デビューしたベテラン、マキノ監督にとっては手慣れた素材であり、流れるような巧みな演出で男意気の世界を作り出している。東映が時代劇から任侠映画へと比重を移しつつあった時期でもあり、次郎長(鶴田浩二)、大政(大木実)、法印大五郎(田中春男)、関東綱五郎(松方弘樹)、桶屋の鬼吉(山城新伍)、増川仙右衛門(津川雅彦)、森の石松(長門裕之)という布陣は、そのまま大正時代劇ともいえる任侠映画の中核をなしていく。



11月20日(火) 11:00～『網走番外地』

石井輝男監督 ◆ 東映(東京) ◆ 白黒 シネマスコープ

1963年、時代劇王国を築いていた東映は、時代劇からやくざ映画への転換を試み、やくざの意地や義侠心を描いたヒット作を次々と生み出して全国の若者たちを熱狂させた。なかでも高倉健は、「日本俠客伝」シリーズや「昭和残侠伝」シリーズをはじめ、数々のヒット・シリーズに主演して時代の寵児となる。本作は1965年から1972年の間に計18作が製作された「網走番外地」シリーズの第1作。極寒の網走刑務所に収監中の橘(高倉)は、妹や病身の母に再会することを夢見ながらまじめに服役しているが、悪辣な囚人仲間こそそのかされて脱獄計画に巻き込まれてしまう。橘の更正を手助けする保護司役の丹波哲郎、「アラカン」の愛称で人気を博した時代劇の大御所・嵐寛寿郎、そして個性的な演技で脇を支える田中邦衛など、魅力的な俳優たちの競演も見所。



11月20日(火) 13:00～『人生劇場 飛車角と吉良常』

内田吐夢監督 ◆ 東映(東京) ◆ カラー シネマスコープ

尾崎士郎の名作として知られる「人生劇場」のうち、特に「残侠篇」に焦点を絞って、巨匠内田吐夢監督が演出した作品である。青春の悩み、男女の愛憎、男の侠気、巡り会いなどを描いたこの小説は、きわめて映画的な題材であり、これまでも14回にわたり映画化されている。内田自身もすでに1936年に『人生劇場・青春篇』を発表、評価を得て、その年の「キネマ旬報」ベストテン第2位を獲得。本作の製作された時期、「任侠映画」と呼ばれる一連の作品群が量産され、大衆的な人気を集めており、この作品もその一本として企画されたものである。とはいえ、個々の演出は力感と格調にあふれており、ラストシーンに立ちのぼる霧などに付加されたイメージは内田作品以外の何ものでもない。鶴田浩二、若山富三郎、藤純子、高倉健などこのジャンルにおいて一時代を画した俳優たちが、そろって出演している点も意義深い。「キネマ旬報」ベストテン第9位。